

千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第50週 (12/7-12/13) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	50週	49週	48週	47週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	4
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千		葉		市		千葉県
		注意報	12/7-12/13	11/30-12/6	11/23-11/29	11/16-11/22	11/30-12/6	
			50週	49週	48週	47週	49週	
小児科	RSウイルス感染症	○	19 1.06	14 0.78	18 1.00	17 0.94	106 0.79	
	咽頭結膜熱		5 0.28	5 0.28	4 0.22	9 0.50	95 0.70	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	45 2.50	46 2.56	33 1.83	42 2.33	485 3.59	
	感染性胃腸炎	○	225 12.50	186 10.33	111 6.17	128 7.11	1,141 8.45	
	水痘		17 0.94	24 1.33	10 0.56	13 0.72	163 1.21	
	手足口病		9 0.50	6 0.33	3 0.17	1 0.06	61 0.45	
	伝染性紅斑		9 0.50	9 0.50	8 0.44	16 0.89	107 0.79	
	突発性発しん		8 0.44	8 0.44	16 0.89	15 0.83	46 0.34	
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	2 0.01	
	ヘルパンギーナ		1 0.06	0 0.00	0 0.00	1 0.06	11 0.08	
	流行性耳下腺炎	→	15 0.83	15 0.83	10 0.56	10 0.56	136 1.01	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		3 0.11	2 0.07	2 0.07	8 0.29	36 0.17	
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	流行性角結膜炎		2 0.40	2 0.40	8 1.60	9 2.25	27 0.79	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11	
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	1 1.00	3 3.00	0 0.00	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	1 1.00	1 1.00	0 0.00	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(11件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査	結核	女性	20歳代	病原体等の検出
結核	男性	50歳代	IGRA検査等	結核	女性	40歳代	IGRA検査
結核	男性	70歳代	病原体の検出	結核	女性	60歳代	病原体等の検出等
結核	男性	70歳代	IGRA検査等	結核	女性	70歳代	IGRA検査等
結核	男性	70歳代	病原体等の検出	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状
結核	男性	80歳代	画像診断等	-	-	-	-

・結核10件(219)、急性脳炎1件(15)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第50週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より増加し1.06となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より減少し2.50となった。過去10年の同時期と比べるとやや多め。若葉区で流行発生警報開始基準値を上回っている。

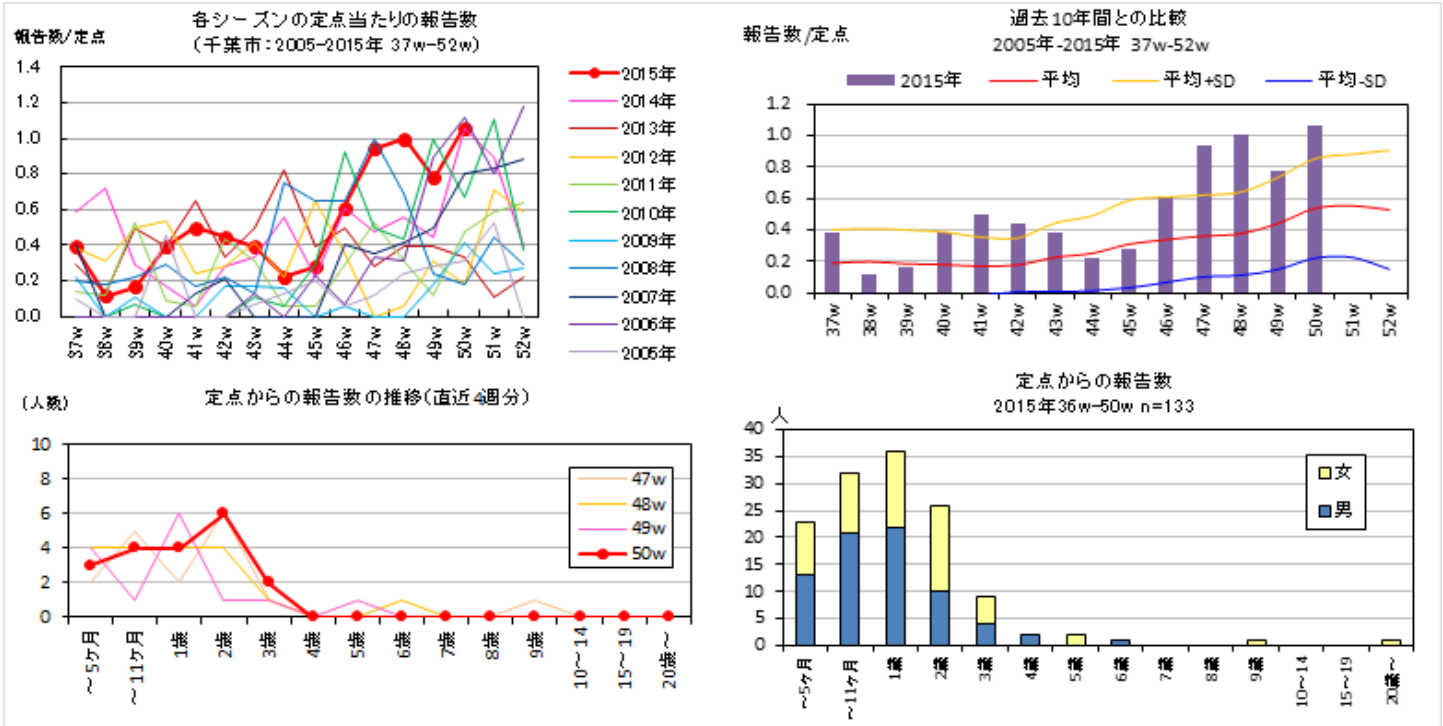
<感染性胃腸炎> 前週より増加し12.5となった。過去10年の同時期と比べると少な目。稲毛区で流行発生警報開始基準値を上回っている。

<流行性耳下腺炎> 前週から横ばいで0.83のまま。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

＜RSウイルス感染症＞

全国レベルは第41週から過去8年の同時期と比べると最多の状況で推移しており、第49週も同様となっています。都道府県別では、香川県、鳥取県、福井県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の2015年第50週は前週より増加し1.06となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区(2.25/定点)で最多で、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2015年第36週から第50週までの累積報告数(n=133)によると、性別では男性が54.9%(73名)、女性が45.1%(60名)で、年齢階級別では1歳(27.1%:36名)、6~11か月(24.1%:32名)、2歳(19.5%:26名)の順に多くなっています。



＜流行性耳下腺炎＞

全国レベルの第49週は過去8年の同時期と比べ多くなっています。都道府県別では、佐賀県、石川県、沖縄県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2015年第50週は前週から横ばいで0.83のままとなり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(3.5/定点)で流行発生注意報基準値(3.0/定点)を上回り最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。若葉区では第18週から例年に比べ高い水準で推移しています。2015年第1週から第50週までの累積報告数(n=346)によると、性別では男性が53.8%(186名)で女性が46.2%(160名)で、年齢階級別では4歳(15.9%:55名)、5歳(14.5%:50名)、6歳(12.4%:43名)の順に多くなっています。

